

製本のススメ

Vol. 127

街はすでにクリスマスから年末にむけて支度が進んでいますね。最近ではイルミネーションも各地で増えて、夜も綺麗な景色が楽しめます。慌ただしい時期ですから ひととき気分を変える心のゆとりは大切です。

今回は**一部抜き**の話し

慌ただしい時期となると どうしても手間を省きたい衝動にかられます。すると一番手を抜いてしまうのは、前準備です。特に加工時間が短い後工程(製本)では、搬入された刷り本の確認に多くの時間をとれません。したがって【加工できる状態の刷り本が全て整っている】として作業が始まります。この時役立つのが**一部抜き**です。

一部抜きとは**今回の刷り本で作る製本加工用の言わば台割**で前回見本とは全く別の物です。数字のみの台割表と違い**見開きや罫線の有無・付物(ハガキや払込み用紙・チラシなど)の挿入位置や口絵や扉の表裏確認 またドブの幅や全体の仕上がり確認もできます**。もちろん丁合順も。更には刷り忘れや版の不具合も確認できるなど、**発注する側・加工する側の双方に大変役立ちます**。特に頁数の多い冊子や見開きの多い冊子では必要不可欠であり**事前に刷り本を確認することで加工上発生する不具合を事前に防ぐことができるのです**。

印刷段階では、各台の印刷時に(おそらく)刷取りを取ることでしょ。外注印刷であれば尚更 刷取りがあると思います。複雑なものであればあるほど この一部抜きが大きな役割をはたします。

製本加工は実物優先です！その為にトンボで断裁しないという作業が多々発生します。また表裏どちらがオモテでもおかしく無い 或いは「あえて逆に使っている」という物もあります。それらは数字だけの台割表からは読み取れず、また指示書の記載は極めてわかりづらい物が多いため、作業に入る前に時間を取られているのが現状です。印刷から製本に移動する前の一部抜き作成は面倒かもしれませんが、実はこれが**一番安全で速やかな納品への近道なのです！**



Tea break

2016 年は申年ですね。当社では社長が年男です。さてこの年男、もともとは正月行事を取り仕切る男子のことを言いました。大掃除から 飾り付け おせち料理まで一切を取り仕切ったそうです。かなり忙しいですね。今では縁起を担ぎ、その年の干支にあたる人が豆まきをするくらいでしょうか・・・
社長～！掃除くらい手伝ってくださいよ～

弊社ホームページはこちら www.isekiseihon.com

by (株) 井関製本